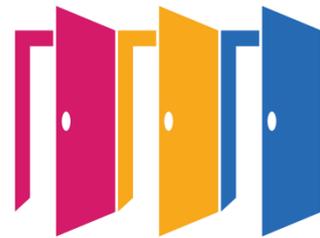


例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
会長 川村紳一 副会長 西田健一 幹事 石原妙生 クラブ会報委員長 大藪太

2020～2021 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「一人ひとりが輝く」

～会員同士の絆を大切に～



ロータリーは機会の扉を開く

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第2019回例会 2020年9月17日(木) 担当 会長・幹事
会員卓話 尾崎 将之会員 テーマ「新型コロナ肺炎 職場と家庭での対策」

前例会の記録 第2018回 2020年9月6日(日)
東海北陸道グループGTM 担当 会長・幹事

*会長あいさつ 川村 紳一会長

皆さん こんにちは。今日は2020～2021年度東海北陸道グループのGTMです。郡上長良川RCのホストで開催されます。本来なら郡上市白鳥町の会場に出席しての開催ですが、新型コロナウイルスの影響で、今回は初めてズームによるオンライン配信になりました。私は、ズームと聞くのは初めてでしたし、会員の皆さんも少なからず初めて聞かれた方も多と思います。本来、パソコン、スマートホン、タブレットがあれば、何処にいてもズーム上のセミナーに参加出来ますが、中々会員の皆さんが一人一人セミナーに参加することが難しいと思い、今回は皆さん一緒にセミナーに参加することに致しました。今回は、波多野 篤志さんに協力して頂き、パソコンからプロジェクターを通してスクリーンに映し出して頂き、皆さんと一緒に参加できるようにして頂きました。GTMには、日置郡



上市長、刃田ガバナーも参加されますので、皆さんと一緒に参加して行きましょう。よろしくお願ひします。

*東海北陸道グループGTM

ホスト 郡上長良川RC

オンラインで繋がって

「地域との共生」を考えよう！

点鐘 ガバナー補佐 藤代 昇様

開会の挨拶、

来賓・参加者・クラブ紹介

ガバナー補佐 藤代 昇様

今回はオンラインで行います。テーマは「地域との共生」です。白鳥町石徹白(いとしろ)地区という町の中心から30分くらいの山の中で、住民が100世帯250名程度のお年寄りが多く、小学校ももうすぐ廃校になるかもしれない地区へ10年前に1人の青年が移住してきて地域の人達と協力して色々な事業を起こしました。そして志を同じくする若い人たちも多く移住し、今では17世帯50名程増えて、小学生も15人程になり、持続可能な社会を作ってこられた平野先生の講演で



すので、楽しみにしてください。

歓迎の挨拶 ホストクラブ会長 畑中 知昭様

会場へお越しのロータリアンの皆様、Zoomでご参加されている皆様、ようこそ参加頂きました。歓迎いたします。我が郡上長良川RCの今年度クラブテーマは「結」です。今日はまさしく東海北陸道グループと繋がっています。一時間という短い時間ですが、皆様どうぞお楽しみください。

郡上市長挨拶 郡上市長 日置 敏明様

皆さん、こんにちは。今日は東海北陸道グループのロータリークラブの皆さんによるGTMが開催されますことを心からお祝い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のためオンラインという手法を使って研修会を行われます真剣な取り組みにも敬意を表したいと思います。どこのクラブも同じだと思いますが、郡上長良川RCの皆様にもコロナ渦にあってマスクや消毒剤やあるいは非接触型の体温計を寄贈頂くなど大変時機にかなった地域社会への貢献をして頂いていることに心から感謝申し上げます。

本日の研修会は石徹白在住の平野彰秀さん、小水力の活用などで著名な方ですが、地域の共生というテーマでご講演して頂くと伺っております。アフターコロナの時代において地域との共生という理念と実践はこれからますます大切になってくると確信しております。今日の研修会が実り多いものとなりますように、そして今日オンラインでご参加の各地のロータリークラブの皆様方の益々の御発展を祈念申し上げます。私の歓迎とお祝いの御挨拶とさせていただきます。

ガバナー挨拶 第2630地区ガバナー 剣田廣喜様

本日は東海北陸道グループGTMが、藤代ガバナー補佐のご指導のもと、オンライン形式で開催されますことを心からお祝い申し上げます。クラブ運営はロータリーの根幹であります。例会はロータリーの魅力、ロータリアンの成長の場をもたらすものであります。そのためにはクラブの親睦と学び、研修が大きな要素となります。そこで今年度研修リーダーを中心にグループ研修をしていこうというのがGTMの目的であります。ただ今年度はコロナ渦により

例会が数カ月休会を余儀なくされ、クラブ研修リーダーの皆様も活動できない状態だと思います。当初の趣旨のようにできないと思いますが、理念、目的を共にする仲間が集まって学ぶことが大変意義のあることと考えます。最近はロータリー活動が多面的になり、新しい会員にはロータリーとは何であるかよほど説明しないとロータリーがなんであるか分からないまま、あるいは終わってしまうことにもなりかねないと危惧しております。単に定款、細則やロータリー用語の解説に終始することなく、会員自身がロータリーに興味を持ち、自らがもっとロータリーを知ろうとする、そして一人でも多くの会員にロータリーが好きになるきっかけを与えることが大切ではないでしょうか。こうしてロータリーを知る事により、ロータリーに情熱を燃やすようになり、意欲的なロータリアンが生まれていきます。今日のGTMが新しい時代の扉を開けることを祈念申し上げます。ましてごあいさつとさせていただきます。

講師紹介・司会進行 宮川賢司様

講演 特定非営利活動法人

地域再生機構

副理事長 平野彰秀様



テーマ

「持続可能な社会の構築について」

今日は、持続可能な社会の構築について私なりに考えていることをお話させて頂きたいと思います。先程ご紹介頂きましたが、私は郡上市の石徹白という地区に住んでおります。今日は色々な地区からご参加頂いておりますので、石徹白に訪れたこともない方もいらっしゃるかもしれませんので、石徹白のご紹介をさせて頂きたいと思います。郡上の北西部に位置し、白鳥からも離れたエリアになります。郡上市は大変広く、白鳥からも30分以上かかるような地域で、高山からも福井からも岐阜からも遠い位置にあります。昔は山の中を移動したということですので、昔は交通の要所であったのかもしれませんが。周りを山に囲まれておりますが、不思議なことに平地が広がっており、縄文時代から続いている集落と言われております。実際に縄文時代の遺跡が出土されております。縄文時代から1000人ぐらいの人が住

み続けてきたと言われております。昭和33年までは福井県でした。合併前までは1300人ぐらいの人口がいたと言われております。今では250人程度となっており、わずか約50年の間に1000人も人がいなくなってしまうという集落です。小学生の全校児童が8人、高齢化率が50%に近いということで集落の消滅が心配されていたというところです。私は岐阜市の出身ですが、今から9年前にこの集落に移り住んで地域づくりなどをさせて頂いております。

「天気の子」という映画を見られた方はいらっしゃいますでしょうか？私も先日、拝見しました。雨の降りやまない東京を描いた映画で、真夏に雪が降ったり、最後には東京の低地は水没してしまうというそういった映画でした。今年に入ってからこの映画を見ましたが、東京に雨が降り続いて水没することなんてないと思った一方で、そういうことがもしかしたら起こりうる時代が来るのかもしれないとも思いました。これは、去年、首都圏を襲った台風19号や、まさに今日、台風10号が九州に接近しておりますので、100年に一度ということが毎年起こる様な時代が来ております。今日はZoomで開催しておりますが、これまで予想していなかったことが起こる代表がコロナ渦だと思います。東京オリンピックは延期されるということですが、1年前は誰が予測できたでしょうか。このような時代がやってくるということ色んなことを予測する方がいますが、世の中の出来事はある程度予想がつくということもあります。例えば、人口減少というのは最も予測が当たるとされており、子どもの数、大人の数、出生率などから予測がつかます。残念ながら郡上市も著しい人口減少が予想されています。グローバル化に伴う感染症の増加も予想されておりました。大きな地震も予測され、予想されているにも関わらず非常にインパクトが大きい出来事が数々起きていると思います。

VUCA（ブーカ）という言葉を知ったことがありますでしょうか？これは今、ビジネス界ではよく使われている言葉で、4つの単語を組み合わせた言葉です。1990年代に冷戦が終了して、国対国の戦争ではなく、テロリズムの戦いということだと、ど

こに敵がいると分からないということで非常に予測しにくい時代がやってくるというところで使われ始めた言葉です。2010年代から国際的な経済フォーラムダボス会議などでも使われるようになりました。今年の春から文部科学省から学習指導要領が大きな改訂をされましたが、改訂の方向性という中に3つの力を育む必要があるというのがあります。そのうちの1つに未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成との言葉があります。アメリカの学者が予想したのですが、今後10~20年程度でアメリカの総雇用者の47%の仕事が自動化される可能性が高い、2011年にアメリカの小学校に入学した子ども達の65%は大学卒業時に今は存在していない職業に就き、仕事というのは大きく変わってしまうかもしれないという予測がされています。これからの時代というのは何か一つの豊かさや一つの基準を目指していくというのではなく、変化していくものに対応していかなければいけないという時代になります。科学技術や産業技術が発展したことによるリスクが生まれてくるということで、予測困難な時代がやってきてしまったということがいえます。

それでは持続可能な社会と聞いてどのようなことを思い浮かべますでしょうか。郡上のような過疎地域ですと人口がどんどん減っていきますので地域を維持していくのが持続可能な社会かもしれません。これからの時代と言うのは予測困難な時代に対応できるというのが持続可能な社会を作っていくうえで重要なのではないかと思います。どこで災害が起こるか分かりませんし、コロナというような予測のつかない場合もあります。Zoomで開催したというのは変化に対応が出来たということだと思いますが、変化に対応できる力をつけることが持続可能な社会につながるのではないかと思います。

私自身は2007年まで東京で経営コンサルタントの仕事をしており、2008年に岐阜に戻ってきて自然エネルギーを導入する活動を始め、2011年に石徹白に移住しました。もともときっかけとなったのは経営コンサルタントの会社にいたときに商社や大手の化学メーカーのコンサルをしていましたが、いずれ人類の経済成長というのはピークを迎える、あるいは

資源の制約に突き当たると言う予測でした。食べ物やエネルギーというのは農山村で生み出すことができるということがあります。農山村を持続可能にしていくことがこのグローバルでも持続可能な社会を作っていくことが出来るのではないかと考えて、石徹白で地域の方達にお声がけさせて頂き小さな水力発電を始めました。2007～2008年に小さな水車を3つ設置し、2009年、2011年と小さな水車を設置していきました。その頃、地域の人達には水力発電は自分には関係ない、一部の人達がやっているだけだと言われました。私はこの地域のためにと考えて取り組みを始めたつもりではありましたが、地域の方々からこう言われたので、なぜだろうと考えました。そこで地域の人達とご相談する中で地域の中で課題と思っている事、やりたいと思っていることを一緒にはじめました。カフェやホームページ、特産品の開発などを始めました。その中で地域の人達に地域づくりなんて今になって始まったことではないと言われました。元々縄文時代から暮らしている地域ですので、自分達の手で暮らしを作っていくのは当たり前のことだったと言われました。歴史の積み重ねの上に自分達があるということを石徹白の地域の方と触れ合っているうちに分かってきました。それをつくづくと思うわけです。2014年に100世帯、全世帯で出資をして発電所を作ろうということになりました。地元の人達の努力ももちろんですが、行政の方、特に岐阜県庁の方々の多大な支援があったことをお伝えしておきたいと思います。

未来を思い描くというのは、ただ単に予測して諦めるということではなく自分達でその未来をどう作っていくかということが、非常に重要であり、それまで積み重ねてこられた地域の歴史に思いをはせるということが非常に重要であると石徹白で活動していく中で学ばせて頂いた事です。2016年に発電所が完成しまして、今も順調に稼働しております。発電の利益が生じますので、それを活用して新たな農村振興に役立てようということで、営農を開始したりしています。この様子はおだやかな革命という映画でも紹介して頂きました。

石徹白に移住して下さる方もこれまで13年間の

間に17世帯50人の方にこの集落に移住して頂きました。正確に言いますと、移住した方に加えて、12人の子どもさんが生まれております。小学校の人数も一番少ない時には4名まで減りました。この過疎の地域で小学校は行政の支援がなければ成り立たないことになりましたが、集落の核となる小学校を残していきたいということで、今から5年後には16人まで全校児童が増えるという状態になっています。町づくりの世界で、よそ者、馬鹿者、若者という言葉がありますが、その地域で新しい存在が現れたときに、何か新しいものが生まれうるということを少しだけお話ししたいと思います。私が東京で勤めていた会社の先輩が書いた本ですが、イノベーションは若造と新参者が引き起こすということが書いてあります。当然、地域で積み重ねてこられたことがあって、全くその事情も全く知らないよそ者が入った事により、何か化学変化が起こり新しい事が起こるということがあります。水力発電についていえば、石徹白で水が豊かで発電の可能性があるというのは知られていたかも知れませんが、それを形にするのはよそ者が来て初めてできたことかも知れません。私は水力発電の専門家でもなんでもありませんが、水力発電の業界で、地域と共に発電をするというのは私より前にはほとんどいなかったという事があります。私は45才になりますが、だんだん若者でもなくなり、イノベーションというのは起こしづらくなってきましたが、新しい異分子を入れるということで、次々にイノベーションが起きてくるのではないかと思います。

郡上市内にサテライトオフィスを作って、東京都内から移住をしてきてIT企業などが進出してくるわけですが、IT企業の技術によって、郡上市の全部の小中学校にテレビ会議システムが一昨年から入っております。IT企業が進出してきたことによって実現されたということもあります。あるいは郡上で移住してきた新しい事業を作ろうということをサポートするという取り組みで、郡上カンパニーという事業を郡上市でして頂いており、私一人でできるわけではないですが、常に新しい人が来る、また新しいことをやって次の人を呼んでくるということ、人の

つながりが新しいことを生み出すということをつくづく実感しております。

最後に、私から始まるイノベーションをしたいと思います。今までの時代というのはよりよいものを作れば、物が売れるという時代でしたが、今は需要より供給が多いので、自分なりの価値を持っていかないとニーズがあるものを作れないことがあります。その時に内発的動機というのが大事だということになります。何かイノベーションを起こした人というのは最初からリーダーであったわけではなく、最初は自分の中でやむにやまれずこれをやってみようというのがあって、それが人を引き付けて社会を引っ張ってくるという話を聞きました。

スティーブ・ジョブズは、大学を中退したり、アップルを追い出されたりしていますが、後から見てみるとそういった点と点が全部つながっていると言っています。その時々苦しいことや辛いこと、何で自分の人生がこんな風になってしまったのだろうと思ったことがあったが、その経験というのが、全て伏線を描いていたようにつながっていたということを行っています。自分自身の直感に従うこと、自分が信じる道を行くと、自分の中にあるものを大切にすることで、それは後からになれば点がつながるのだとのスピーチをスタンフォード大学の卒業生に贈りました。

私自身も郡上に飛び込んで地域で暮らしていくというのは、当時は全く予想のつかないことでしたが、目の前あることを一つ一つやってきて後から考えてみると色々な経験が繋がってきたかなと思っています。自分自身にある直感とか希望を大切にすることが大事であるなと思います。最後に私の好きな言葉で締めたいと思います。イギリスの社会学者19世紀ラスキンという人の言葉ですが、私たちがこの世に生まれて来て得られた最も大きな財産は人生そのものだという事です。それぞれの人生があり、それぞれの人生に役割があると思いますが、その自分の人生の役割を最大限に高めて、周りに良い影響を及ぼした人が最も幸せな人であるとラスキンは言っています。その様な人々がいる国というのが一番豊かな国であるということです。

ロータリークラブにお招き頂きまして、皆さん特に郡上長良川RCの会員の皆さんがこの会に向けて熱心に取り組んでいらっしゃるその熱を感じて私もやりがいを感じておりますが、その様に人が何かに向かって真剣に取り組んでいるのは、すごく周りに伝わってくるものがあると思います。それぞれが自分の人生を最大限に生かそうということで頑張っていくことが周りの人達に伝播をしていって新しい動きを生み出すとすごく思うことがあり、その人たちがいる地域というのは豊かな地域になると思います。

講評 パストガバナー 辻 正敏様

昨年度は大変お世話になりました。今回は新型コロナウイルス対策のためWEBでの開催となりました。地区でも最初の試みで、大変なご苦勞ではなかったかと思えます。

平野さんは地域や企業が続いていくかどうかもち続の可能性だという風に仰って頂きました。それには長い時間軸、未来を予想するものではなく、作り上げていくものである、異分子の重要性、最後に自らのイノベーション、多様性を持つと良いとのお話をされました。このお話を聞かせて頂きながら考えました。

私達のロータリーも115年になります。これは知らず知らずのうちに持続可能な組織として、単年度制で毎年少しずつ変化を取り入れて未来を夢見ながら世界中の人と繋がり、そして自らの確信、私は好奇心といってもいいと思いますが、構築されたものであると改めて感じました。それを続けていくことができたのも、親睦、奉仕、多様性、高潔性、リーダーシップなどロータリーの中核的な価値観があります。もう一つ大きなものとして寛容の心があったということで、大きく道を曲げてしまうことなくここまでこられたのだなあと改めて気づかされました。平野さんには素敵なお話を頂き、御礼申し上げます。どうか今日のGTMが今後のロータリーの活動だけにとどまらず、生活全てに関わるものとして東海北陸道グループの皆様の方々の御発展に繋がることを期待して講評とさせていただきます。

次期開催クラブ発表 ガバナー補佐 藤代 昇様
次期開催クラブ会長挨拶 美濃RC 村下侑刑様
閉会の言葉 GTM実行委員長 小島正則様
点鐘 ガバナー補佐 藤代 昇様

*参加会員 14名

***感想**

- ・初めてZoomを使ってホストクラブの皆さんは準備など大変だったろうと思います。
- ・今後は、YouTubeでアップロードなどをするとリアルタイムで参加できない方も視聴できるのではないかな。
- ・Zoomを繋げて意見交流の機会を設けると良いと思う。
- ・皆さん個人で視聴するより集まって参加するというのが有意義であったと思います。



<次例会の案内>

第2020回 2020年9月24日(木)

池田 健司様

「ペンキ屋 ケンちゃんのマジックショー」

担 当 会員基盤増強維持委員会